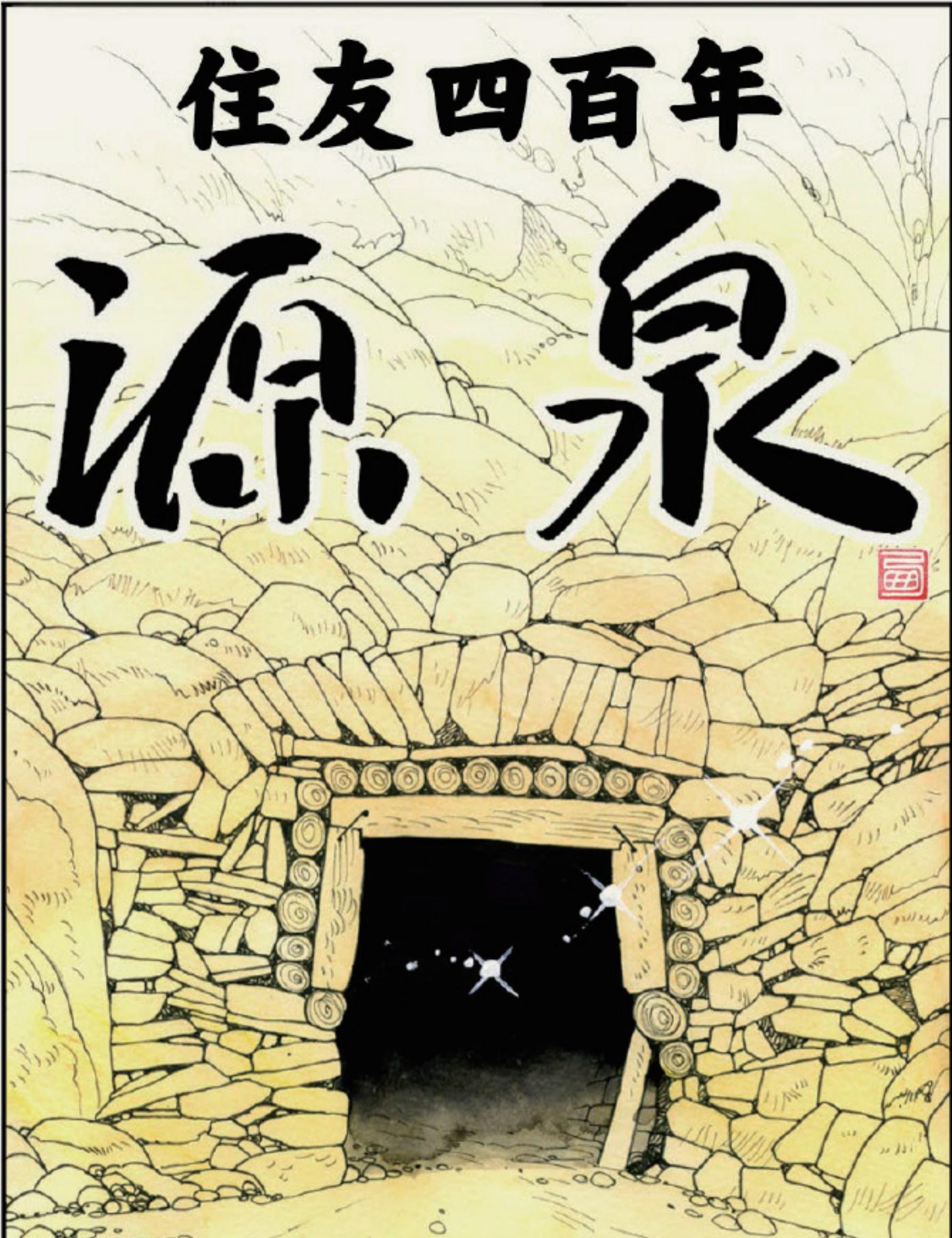


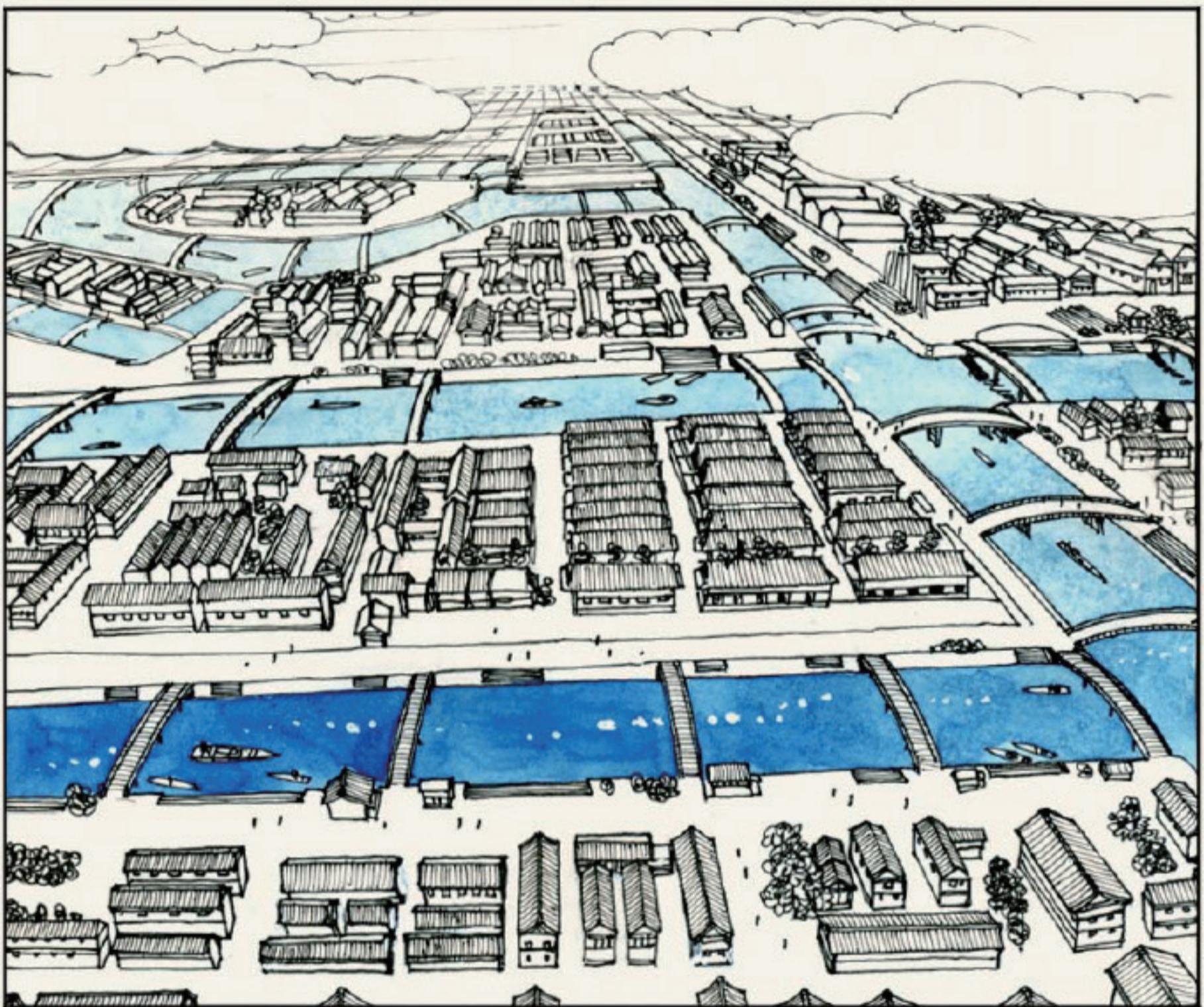
住友四百年

酒  
行



第七話 「別子銅山永代稼行」

作: 西ゆうじ 画: 長尾朋寿



◎

この作品は、住友の歴史を参考にして創作された物語です。



：敵討ちやうて、吉良さまを狙ううてはるつて噂やさかい。

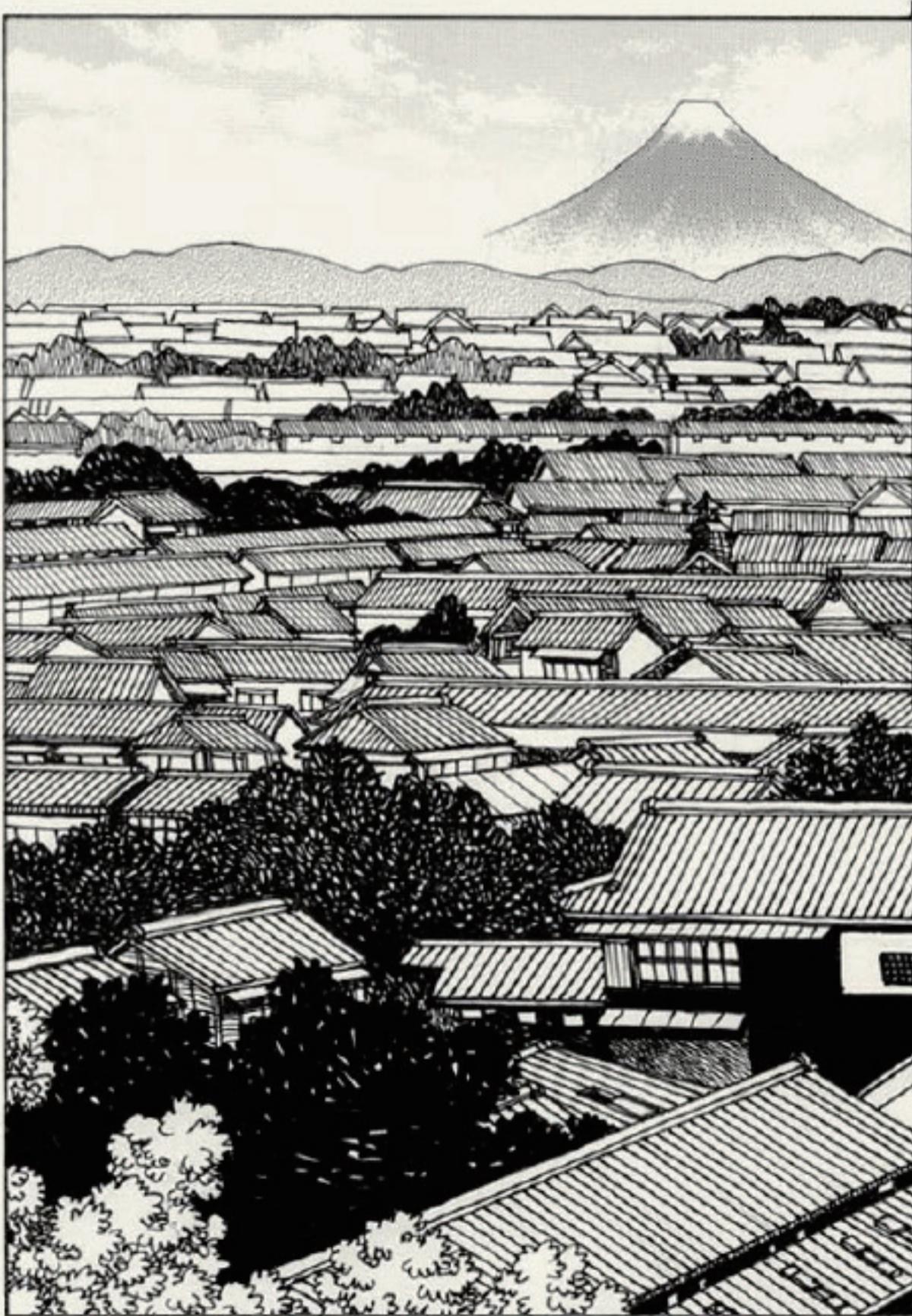
そらしいけど、  
旦さんは勘定奉行さまにお会いに行きはつたんや  
大丈夫やわ。

そやな。で、旦さんは、  
なんで勘定奉行さまにお会いに行きはつたん？

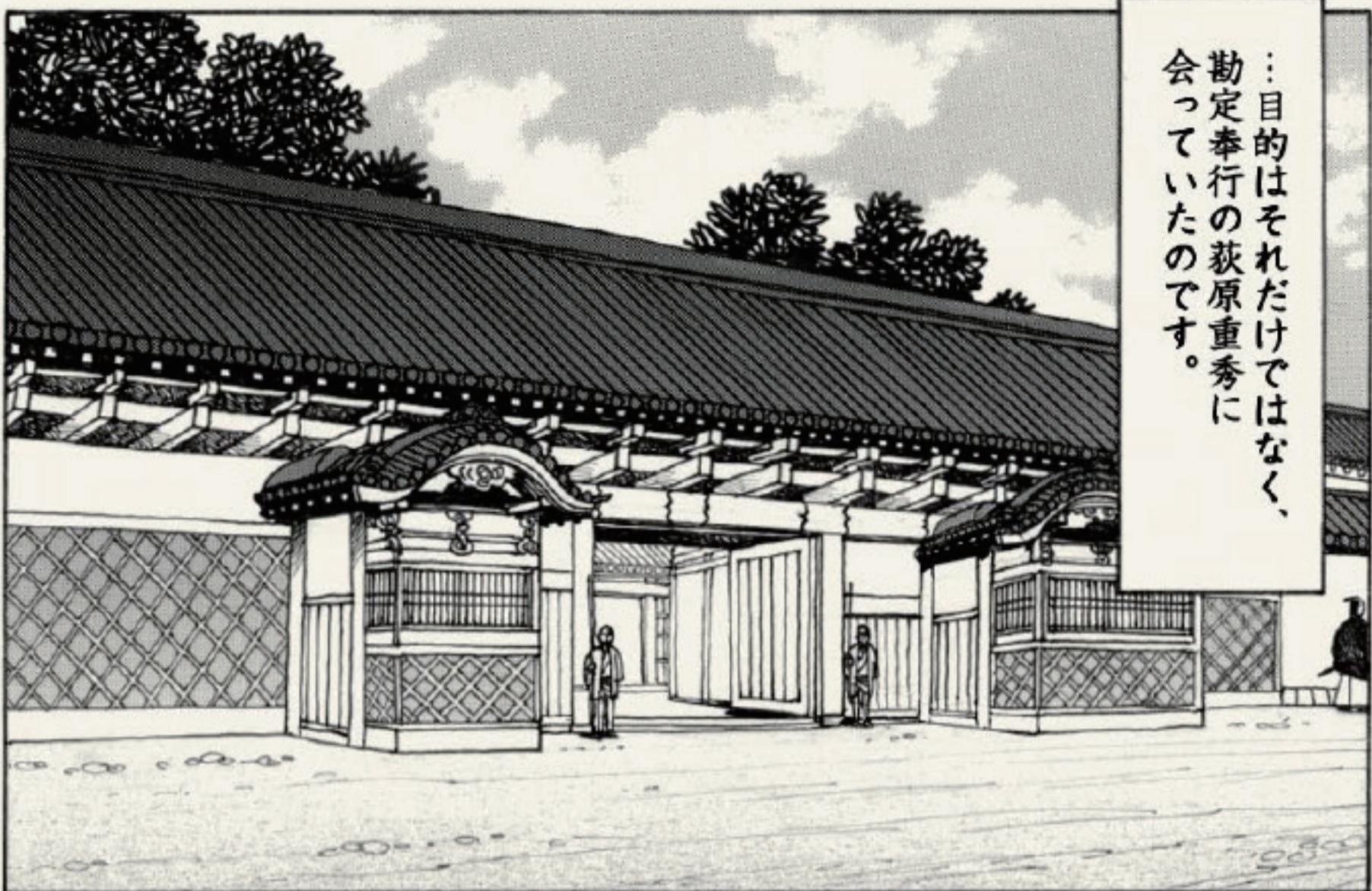
チヨコ  
ヌカ

！？

別子銅山の経営に着手した  
泉屋四代目の住友吉左衛門友芳は  
幕府に求められて産銅増進の  
具体策を答申するため、江戸へ参ったのですが…。



：目的はそれだけではなく、勘定奉行の荻原重秀に会つていたのです。



では、  
我が国の最重要輸出品である  
銅の生産が思うように伸びず、  
貿易に支障を来しておるのを  
打開するには。

その時の勘定奉行・荻原重秀  
(1658~1713)は、  
幕府の財政難を緩和させるには、  
貨幣改鑄や銅輸出の円滑な  
運営を謀る必要があると  
考えていました。



大坂に銅座を  
設けただけでは駄目だと  
申すのか、泉屋？



お国のために銅の増産を図るには、我々産銅業者の幕稼行をしやすくするために、幕府がお力を貸し下さればよろしいのでおます。

四つ、  
お力を賜りたいと  
思います。

力を貸す？  
それはやぶさかではないが、何をしろと  
いうのじや？

例えば、私ども、  
泉屋の場合で  
おましたら…。

遠慮せずに  
言つてみろ、  
泉屋。

まず一つは現在、  
伊予の別子で実施中の  
水抜きは難工事なので、  
工事が容易な立川側へ  
切り抜かして頂き、

尚の銅増産のために  
立川鉱山も別子銅山同様に  
泉屋で稼行させて頂けると  
好都合であります。



はい。二つ目は、  
輸送路短縮に立川  
経由の新居浜道の  
使用許可。

で、  
後の三つは？

それは  
西条藩との  
兼ね合いもあるから  
ちと難しい気も  
するが…。

三つ目は、精錬燃料  
確保のために別子山続きの  
西条藩領の山の雑木を  
用いさせて頂く。

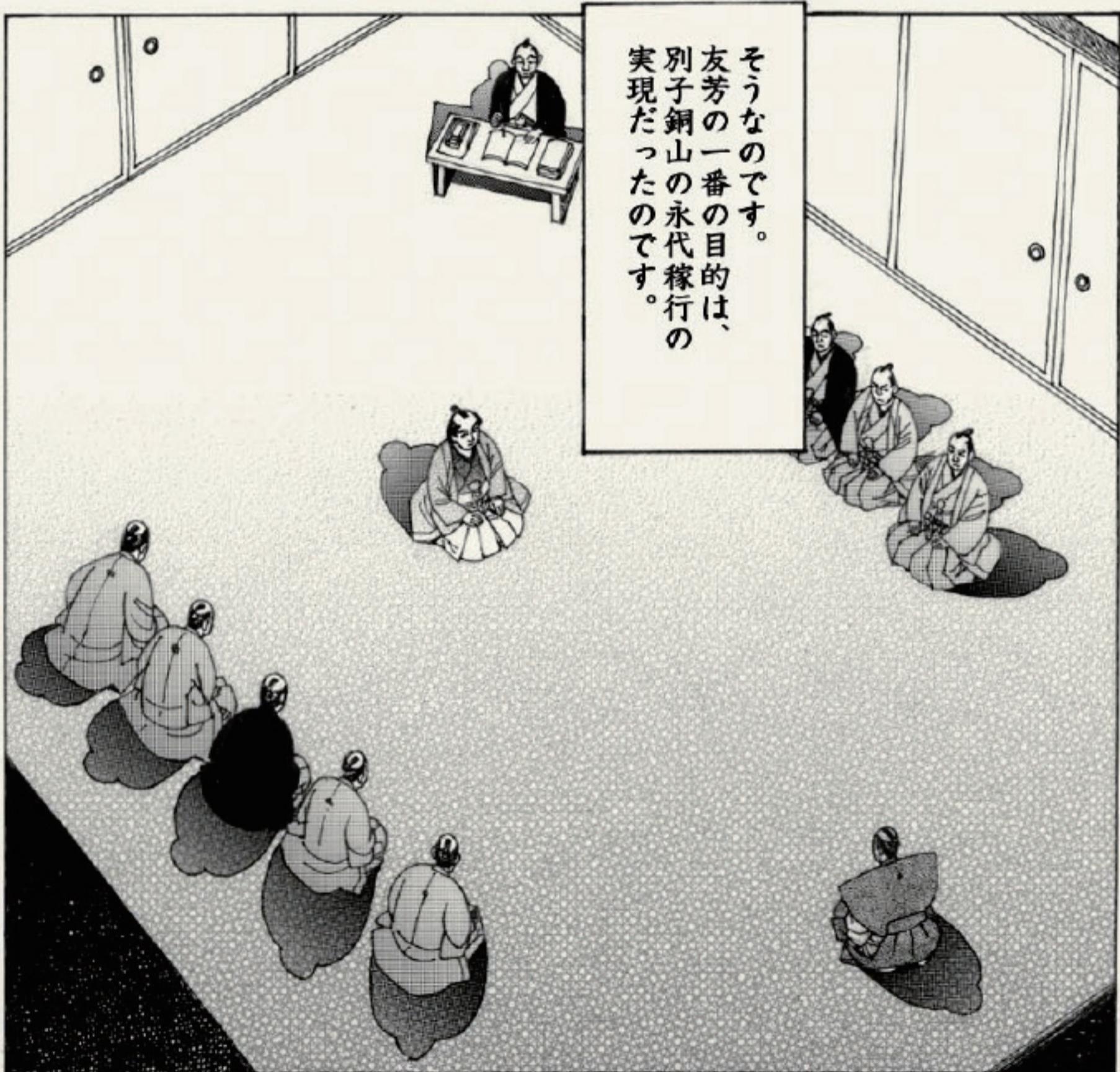


そして四つ目。

泉屋の別子の永代稼行をお認め下さること。

これらを願えれば、  
泉屋は必ずや銅を増産し  
幕府のために  
お尽くし致します。

そうなのです。  
友芳の一番の目的は、  
別子銅山の永代稼行の  
実現だったのです。







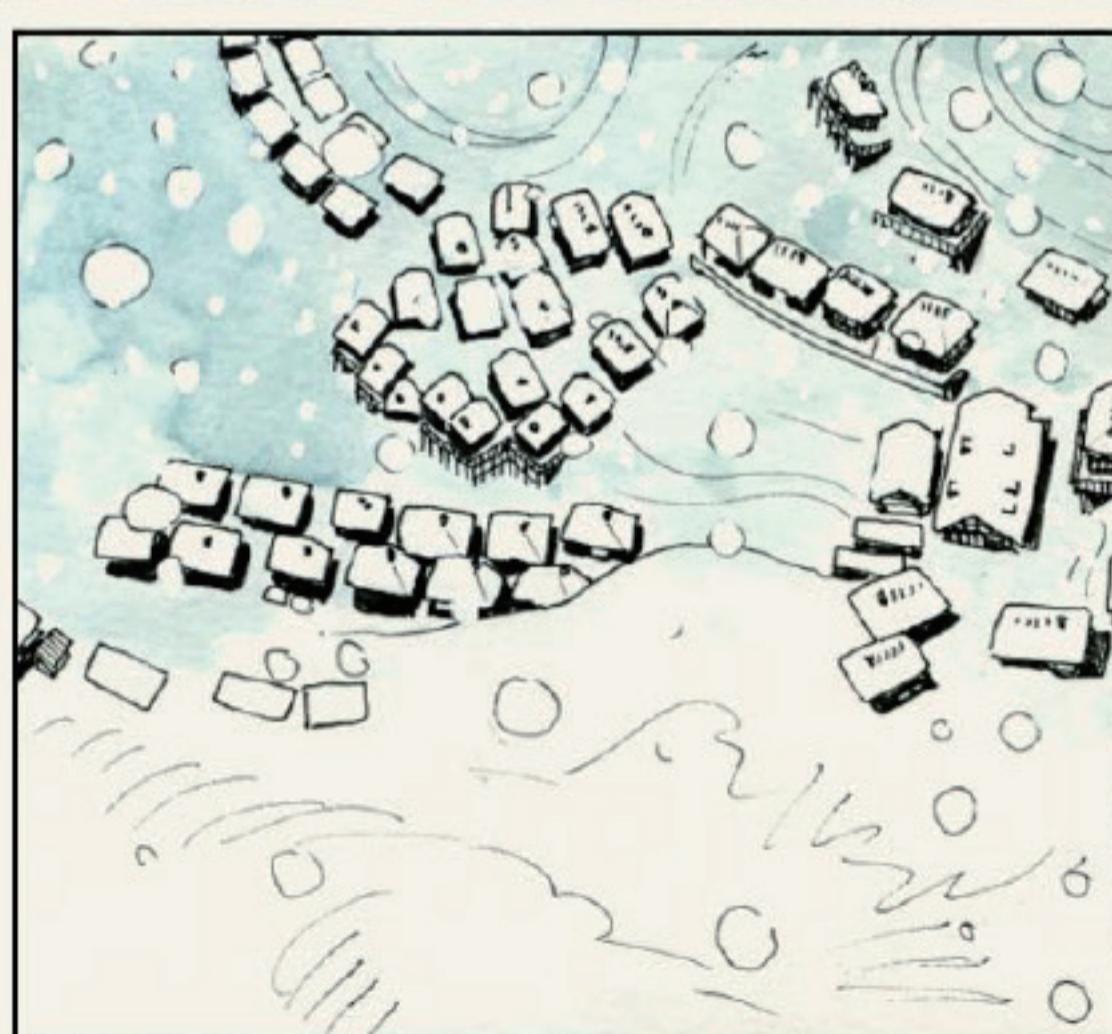
翌年、幕府は泉屋の要望の内、  
一つ目以外の三つは、  
もつともだとして了承し、  
別子銅山は、泉屋住友の永代稼行となつたのです。



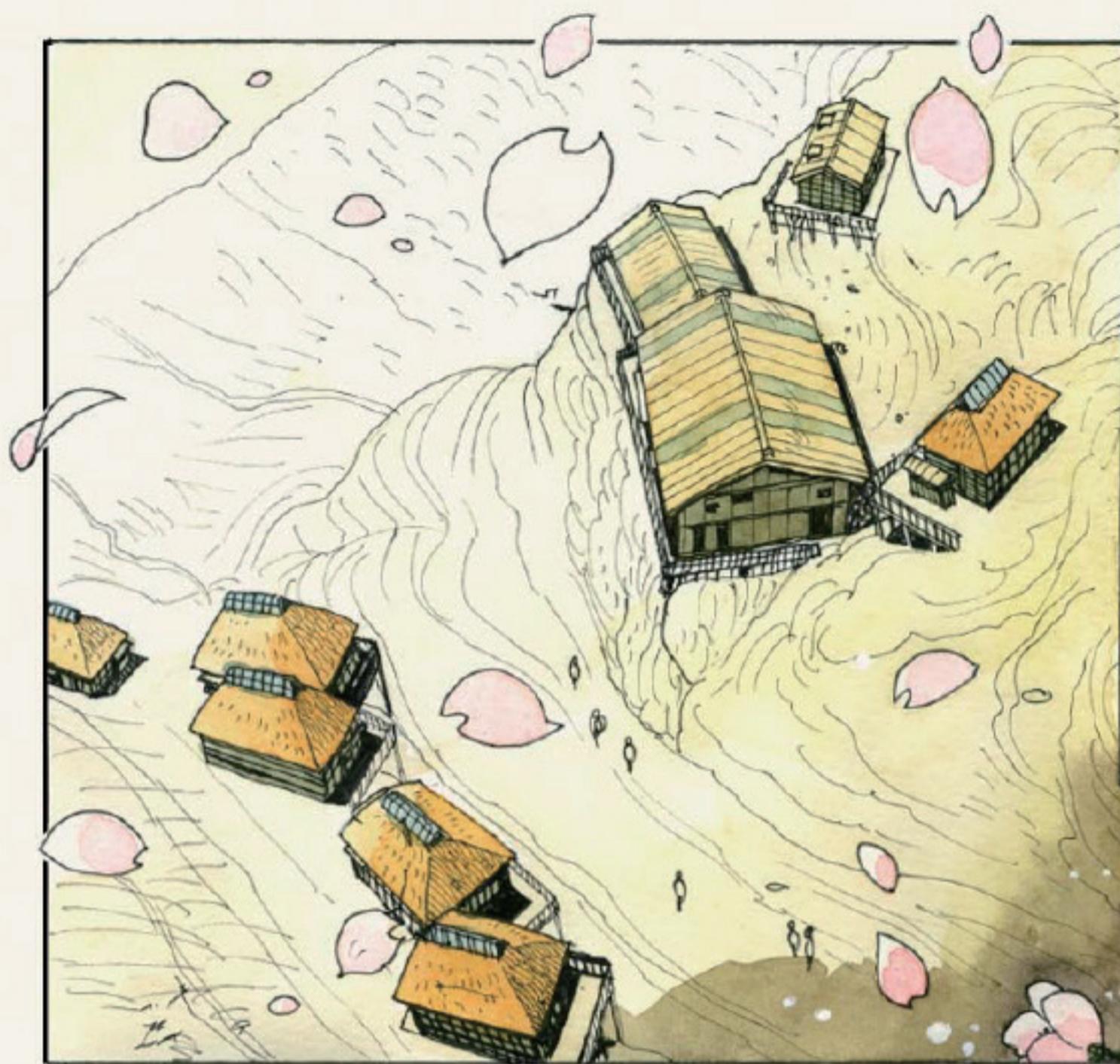
またその後、糸余曲折は  
ありましたが、隣接する  
立川鉱山も宝曆十二年（1762）、  
別子銅山に併合されもしました。



そして、泉屋住友は、永代不朽の  
財本「別子銅山」の経営は、  
一代で成すのではなく、二代：  
三代：四代：と長期的な視野と  
綿密な計画をもつてあたる、  
事業の永久性を追求したのです。



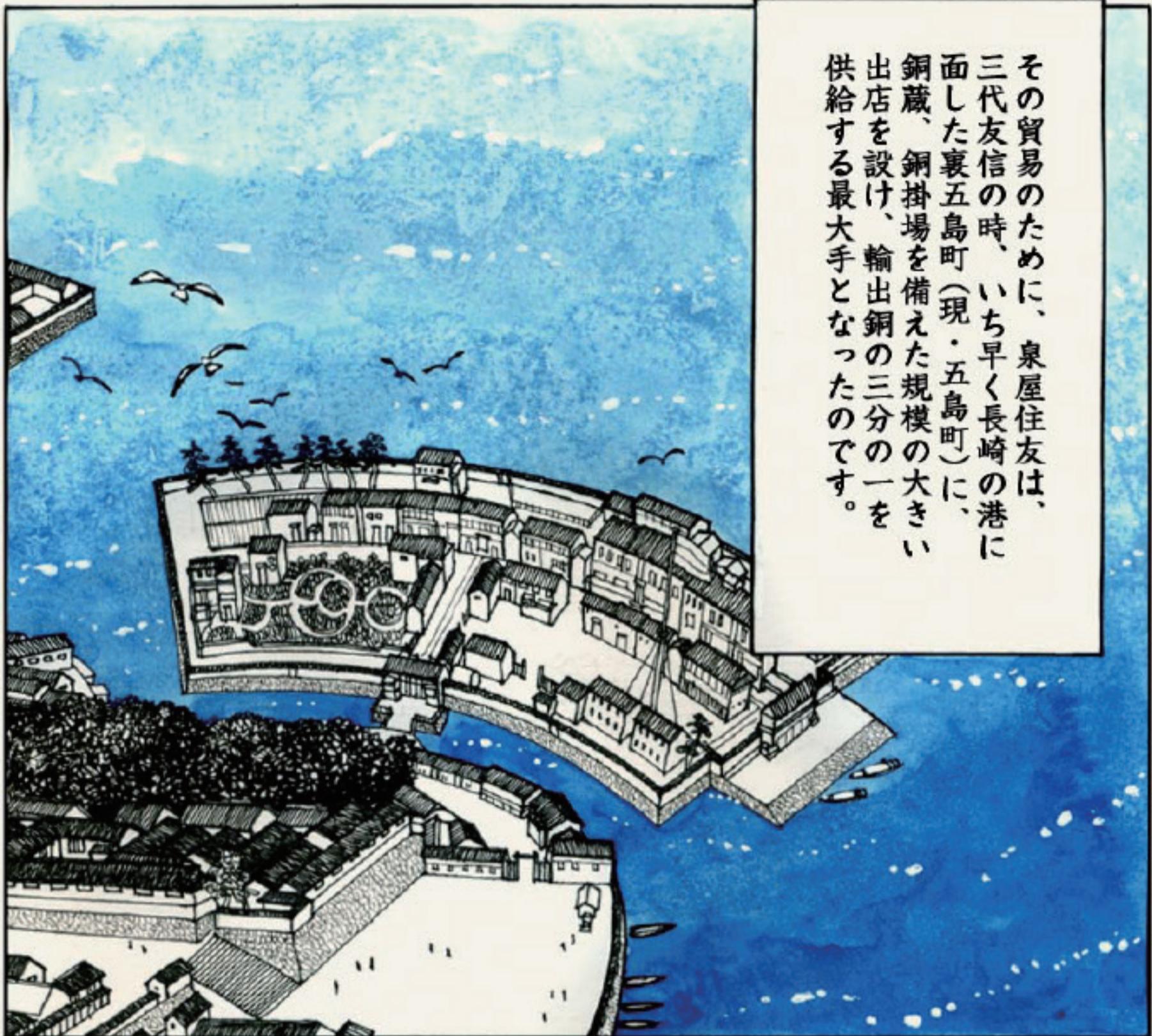
その結果、別子銅山は元禄四年の開坑から、その後、約三百年にわたって稼行を成すことになるのです。



こうして造られた泉屋住友の銅は、我が国的主要輸出品のひとつとして、海外へも送り出されました。

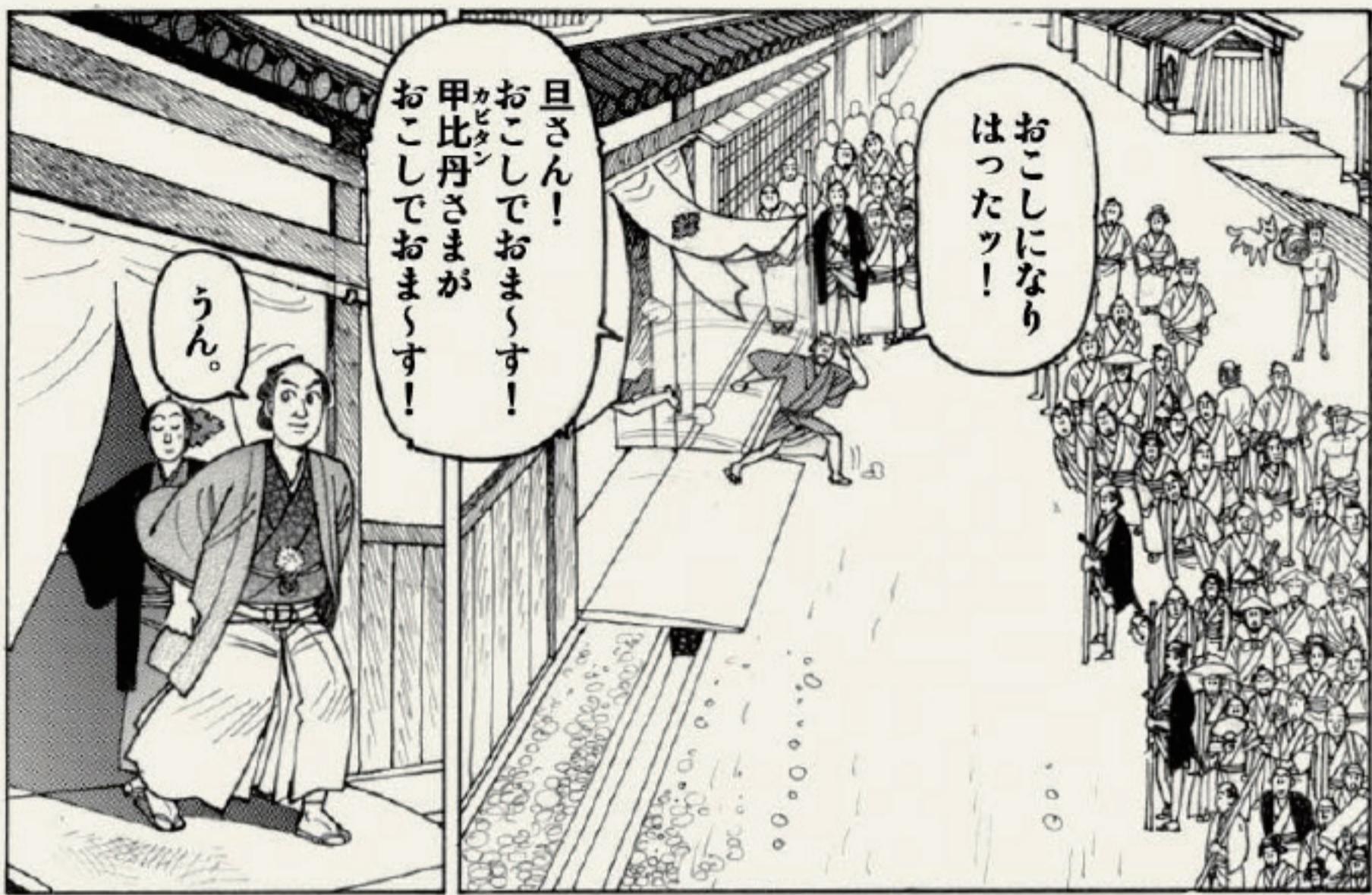


その貿易のために、泉屋住友は、三代友信の時、いち早く長崎の港に面した裏五島町（現・五島町）に、銅蔵、銅掛場を備えた規模の大きい出店を設け、輸出銅の三分の一を供給する最大手となつたのです。



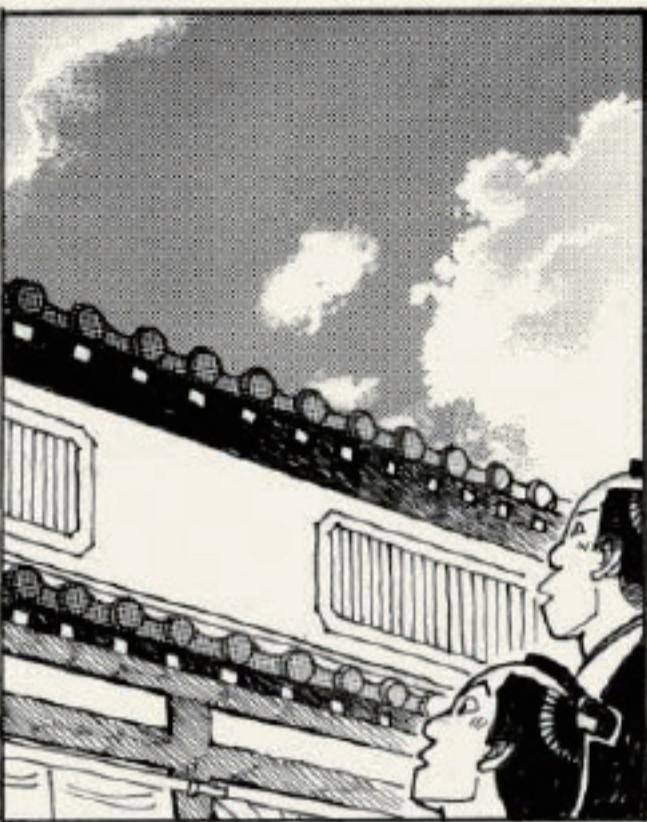
また泉屋住友は、銅の輸出だけではなく、砂糖・薬種・繊維などの輸入にも関わっていました。







わいら遠目で  
紅毛はんを見ただけで  
チビつてしまふたのに。



アホ。おのれらとは  
違うわい。  
泉屋はんは天下一の  
銅屋なんやさかいな。



泉屋へのオランダ使節の  
表敬訪問は友好のため  
でししたが、互いの情報  
収集の目的もありました。

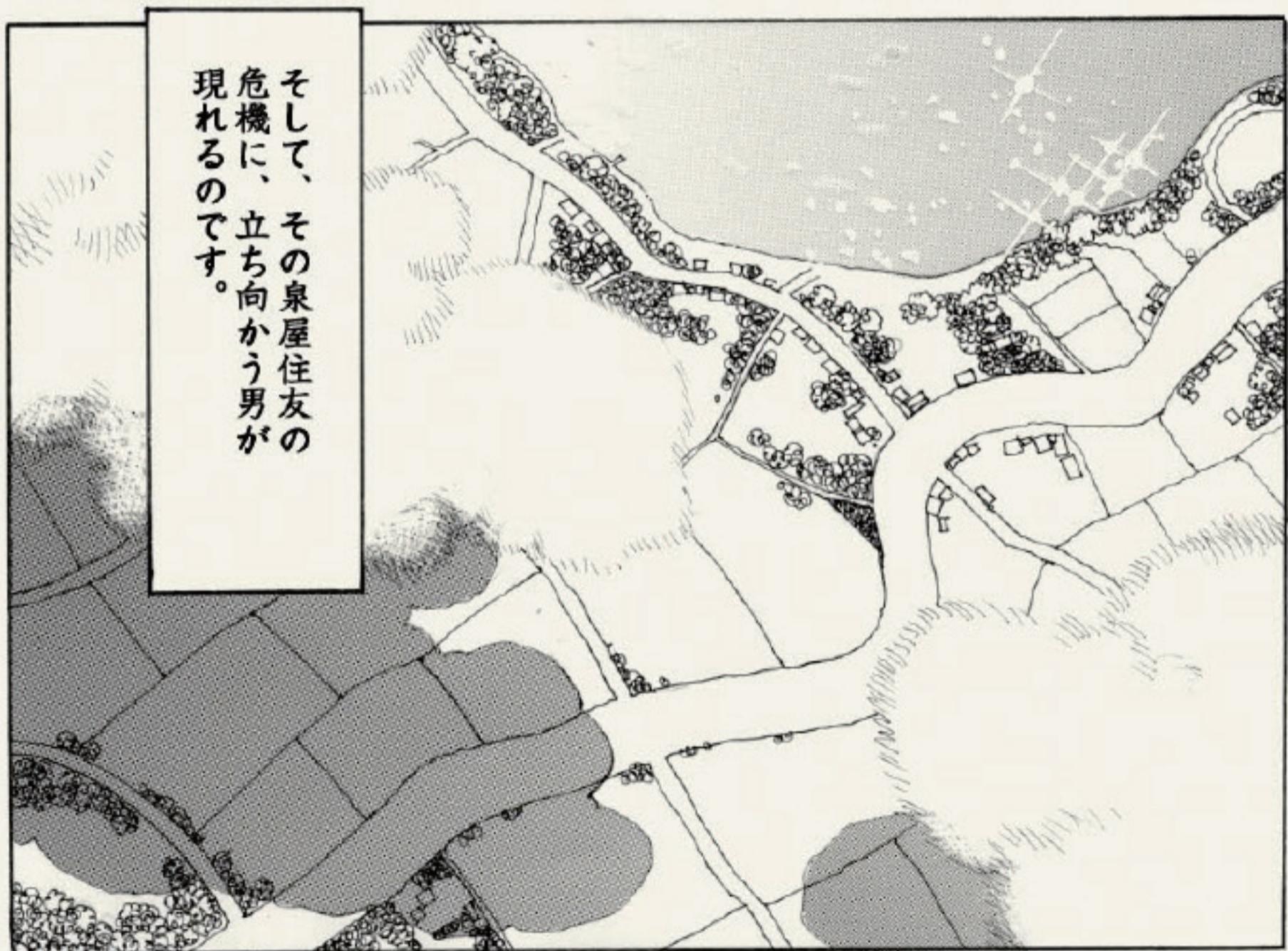
また文政九年（1827）五月六日に  
泉屋を訪れた一行の一人に、実は  
ドイツ人であつた医師・博物学者の  
シーボルトもいたのです。



幕末から明治維新にかけての大  
きな時代の渦の中での、  
幾多の危機を迎えるのです。

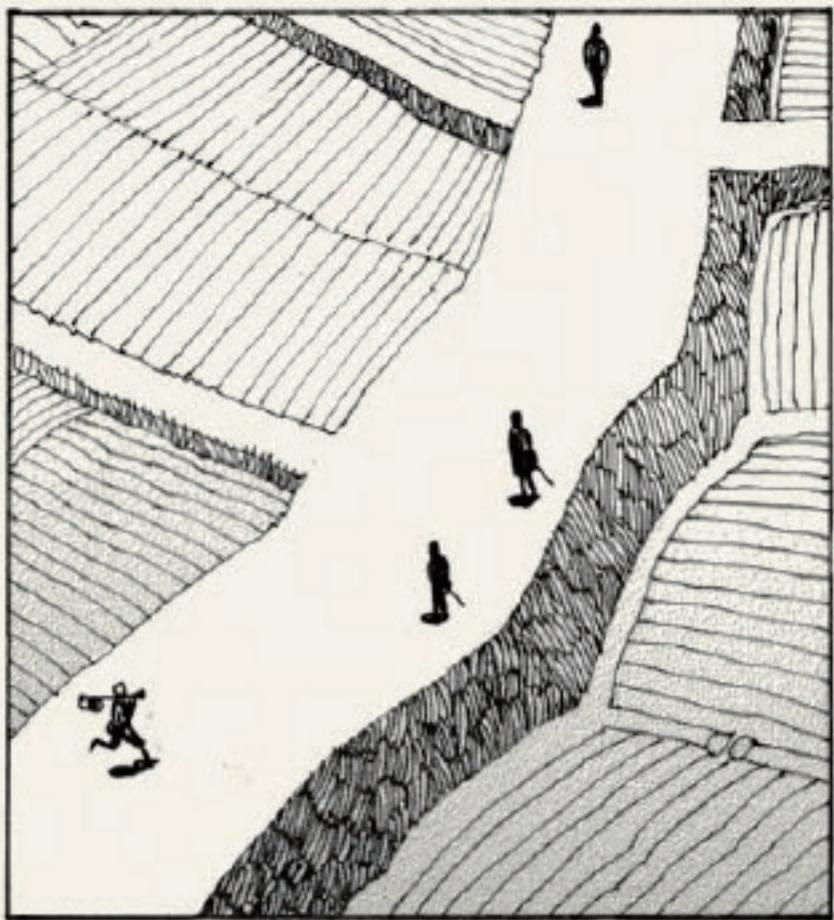


泉屋住友は、永代稼行を得た  
別子銅山をはじめ、吉岡、幸生などの  
銅山を中心に産銅業に励むのですが、  
それは決して容易いものでは  
ありませんでした。



そして、その泉屋住友の  
危機に、立ち向かう男が  
現れるのです。





これから行く  
伊予の別子銅山つて  
どんなお山でつか？

険しゆうて高い高い  
岩山や。そやけど、  
そのお山の中には、  
仰山のみんなを  
仕合わせにしてくれる  
銅があるんや。

仕合せに  
してくれはるん  
でつか？

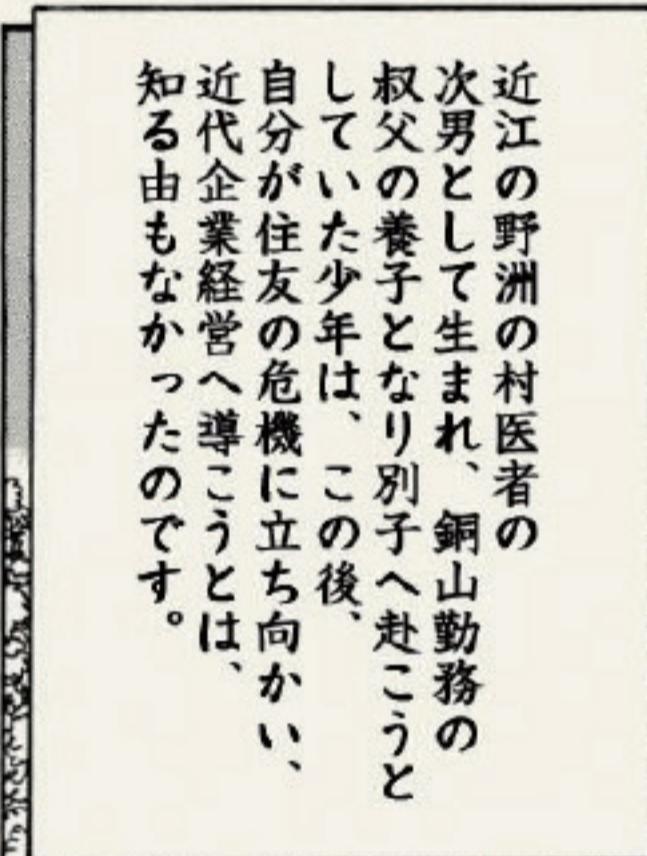


そや。  
でもな、仕合せは、  
あつちからは来んでは。  
頑張つて、頑張つて、  
一生懸命に人のために  
働かんとあかん。

駒之助、お前は  
まだ九才ここのつやさかい、  
別子銅山で働くように  
なるまでには  
後二年あるけどな。  
働きだしたら辛いで。

へい。







幕末から明治維新にかけての  
激動の時代。  
泉屋住友を襲う幾多の危機に、  
住友初代総理事・広瀬宰平、  
どう立ち向かつていいくのか。